

日本記録0.5秒近く更新

世界の壁は厚く、そして高かった。自転車トラックの女子4000m団体追い抜きの日本は従来の日本記録を0.5秒近く更新するも、出場10チーム中最下位で予選敗退。1.6秒差で突破できず、チーム最年少19歳の垣田は「ベストを尽くした。日本記録を出せたのはよかったが、もう少しで予選を上がったので、悔しい気持ちもある」と振り返った。

大会前は調子を落としていたが、「集中し、思っていた以上の走りができた」。ただ、2回目のローテーションで「タイムを少し落とし、ロスしてしまった」と省みる。

団体追い抜きは4人が一直線の隊列を組んで走り、空気抵抗の大きい先頭を交代しながら体力の消耗を防ぐ。垣田は最後尾からスタートし、先頭でゴールする「4走」を担当。「先頭にいる時間が一番長いので、

垣田「集中」持久力生かす

一定のペースで引っ張ってみんなを休ませる」と持ち味の持久力を生かした。

その素地は小中学時代のサッカー経験で培われ、全国屈指の自転車の強豪・松山学院高で磨き抜かれた。高校入学から本格的に競技を始め、「何も分からないまま、がむしゃらに練習した。みんなについていくのが精いっぱい、練習は全部きつかった」。そこから国内タイトルを数多く獲得し、在学中に日本代表入りした。

9日夜（日本時間10日未明）には、2人一組で走るマディソンを控える。3月の国際大会では金メダルを獲得し「自信につながった。（五輪でも）メダルが取れるよう、しっかりと調整したい」。早速気持ちを切り替え、10代最後の一番に臨む。

（パリ愛媛新聞＝渡部竜太郎）